

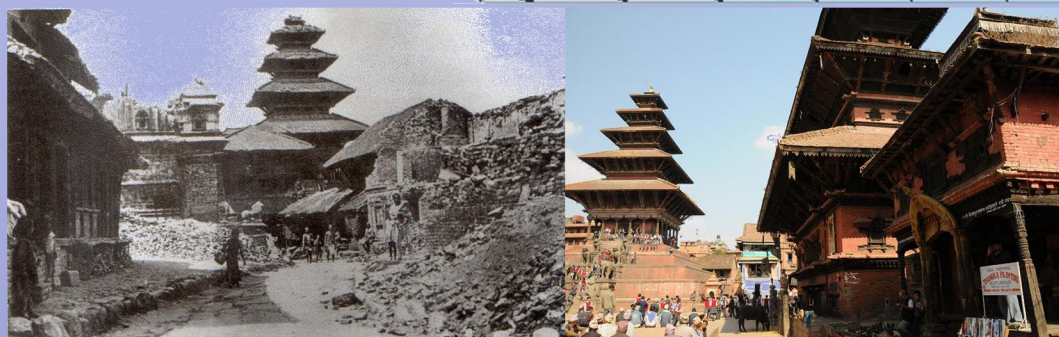
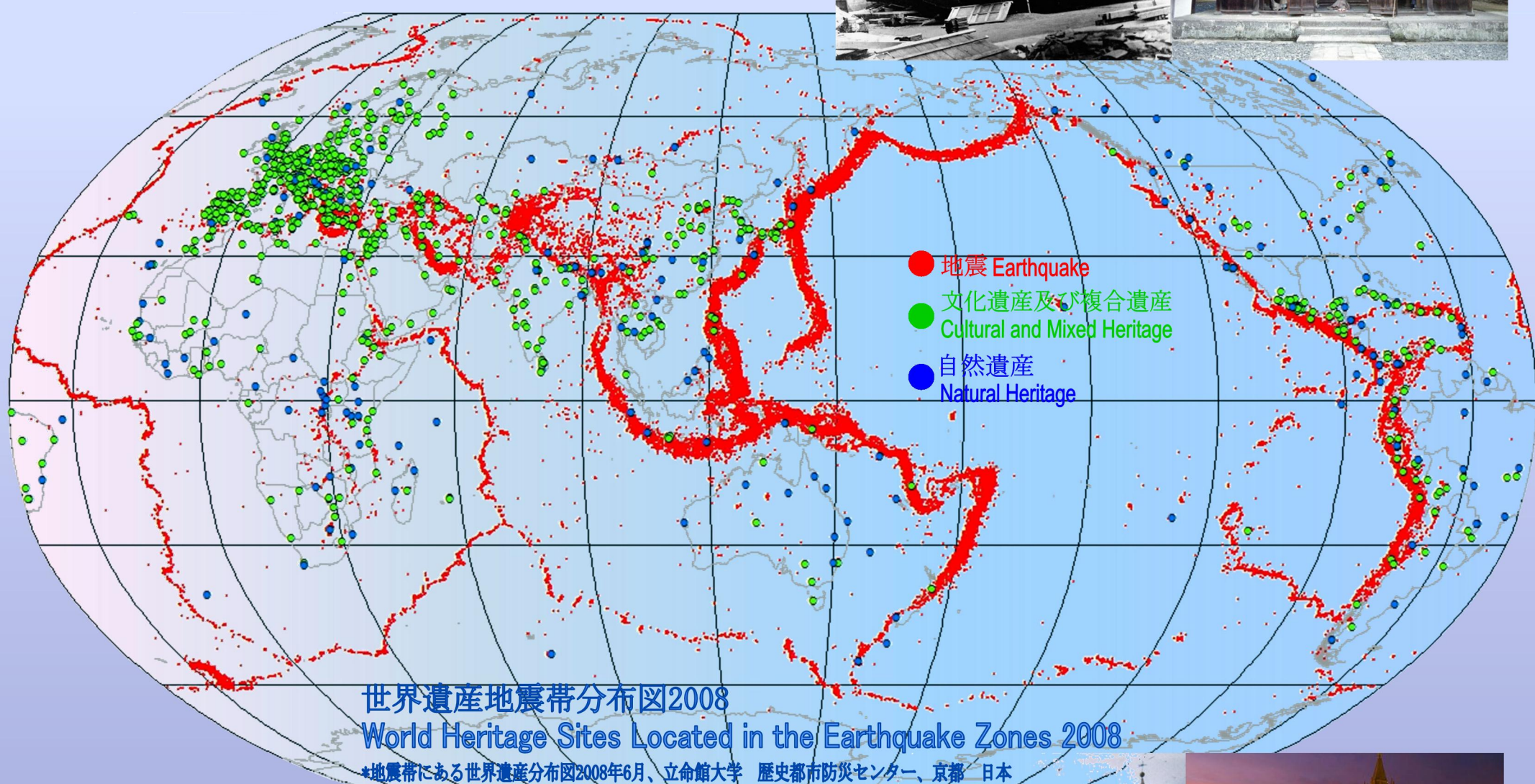
地震帯における世界文化遺産の持続可能な保護

"Sustainable Protection of World Cultural Heritage in Earthquake Zones"

2009年8月30日

同時通訳あり
(日・英)
入場無料

1923年関東大震災による倒壊(茅葺き屋根)鎌倉市 国宝「円覚寺舍利殿」の現況



1934年地震被害、ネパール世界遺産 バクタプールのニャタブラ寺院五重塔と町並み



2001年地震被害、ペルー世界遺産「アレキバ歴史保存地区」のアレキバ大聖堂と町並み

2009年8月30日(日) 13時~17時半 (開場12時半)

立命館大学・衣笠キャンパス (歴史都市防災研究センター・カンファレンスホール (地下1階))

主催: 立命館大学、立命館大学歴史都市防災研究センター、日本イコモス国内委員会

後援(予定): 外務省、文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市

立命館大学・日本イコモス国内委員会 国際専門家会議（大学先端教育プログラム）

国土全体が地震帯にある日本にあって、世界遺産「古都京都の文化財」も直下型地震による同時多発火災の危機にある。ネパールの「カトマンズ渓谷」など、同じく世界各地の地震帯にある世界文化遺産は2百件近く、人類共通の遺産としての持続可能な保護対策が地球規模で必要となっている。本会議は、地震帯での世界文化遺産保護に必要な危機管理計画などの対策を国際的専門家が検討し、その結果を京都の市民府民とともに、世界にメッセージを発しようとするものである。同時通訳付き。

プログラム：

開会挨拶、関係者挨拶

講演1「京都の文化遺産の危機管理状況と展望」

土岐憲三（立命館大学教授、立命館大学歴史都市防災研究センター長）

講演2「カトマンズの世界文化遺産の災害と危機管理状況および展望」

ロヒト・ジグヤス（立命館大学教授、イコモスICORP共同代表）

講演3「地震補強技術開発のための歴史的建造物の耐力調査：バムとカトマンズからの教訓」

清野純史（京都大学教授）

講演4「歴史都市における災害への備えと災害の後」

ミカエル・ターナー（ユネスコチェア教授、世界遺産委員会イスラエル代表）

特別講演「世界遺産の保存状態と災害からの危機管理」

ジョバンニ・ボッカルディ（ユネスコ世界遺産センターアジア太平洋地域チーフ）

パネル・ディスカッション「地震から世界文化遺産を保護：ガイドラインと運用の手続きの開発に向けて」

司会：ハーブ・ストーベル（カールトン大学教授、イクロム代表）

パネリスト：ジョバンニ・ボッカルディ（ユネスコ世界遺産センターアジア太平洋地域チーフ）

グスタヴォ・アローズ（イコモス会長） 土岐憲三（立命館大学教授） ミカエル・ターナー（ユネスコチェア教授）

討論

「地震帯における世界文化遺産の持続可能な保護に関する京都宣言」提案採択

益田兼房（立命館大学歴史都市防災研究センター教授）

閉会挨拶

「地震帯における
世界文化遺産の
持続可能な保護」

本事業は、文部科学省グローバルCOEプログラム 立命館大学「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」の一環です。

International Expert Meeting organized by Ritsumeikan Univ. RITS-DMUCH and Japan-ICOMOS

“Sustainable Protection of World Cultural Heritage in Earthquake Zones”

The entire territory of Japan is prone to earthquakes. Therefore World Heritage site of “Historic Monuments of Ancient Kyoto” is at risk of damage due to an inland earthquake followed by post-earthquake fires as was the case during Kobe Earthquake in 1995. Today there are around 200 World Cultural Heritage Sites that are located in the earthquake zones all over the world, and there needs to be sustainable measures at the global scale for the protection of these common properties of humanity. Through this symposium, we aim to discuss with international experts the sustainable measures necessary for the protection of cultural heritage located in earthquake zones, and to disseminate the outcomes to the citizens of Kyoto and World

Program:

Opening Greetings and Background

Lecture 1: “Risk Management for Cultural Heritage in Kyoto—challenges & New Perspectives”

Kenzo TOKI, Ritsumeikan University, Kyoto

Lecture 2: “Risk Management for World Cultural Heritage in Kathmandu—challenges & New Perspectives”

Rohit JIGYASU, Ritsumeikan University, Kyoto

Lecture 3: “Structural Analysis of Heritage Buildings for developing Seismic Retrofitting Techniques: Lessons from Bam and Kathmandu”

Junji KIYONO, Kyoto University, Kyoto

Lecture 4: “Disaster Preparedness and the aftermath of Historic Cities”

Michael TURNER, UNESCO Chair, Bezalel Univ., Israel

Special Lecture: “Recent Initiatives for Disaster Risk Management of World Heritage”

Giovanni BOCCARDI, UNESCO WHC.

Panel Discussion: Protecting World Cultural Heritage Sites from Earthquakes: Towards Developing Guidelines and Operational Procedures

Chaired by Herb STOVEL (Prof. Carlton Univ.)

Panelists: Giovanni BOCCARDI (UNESCO), Gustavo ARAOZ (ICOMOS), Kenzo TOKI (Ritsumeikan Univ.) and Michael TURNER (Bezalel Univ.)

Open Discussion

Adoption of “Kyoto Recommendations for Sustainable Protection of World Cultural Heritage in Earthquake Zones”

Kanefusa MASUDA (Ritsumeikan Univ.)

Vote of Thanks and Closing



乗車	系統	下車	所要時間（目安）
JR・近鉄 京都駅	市バス50・快速205	立命館大学前	35分
	市バス205	衣笠校前	35分、さらに西へ徒歩10分
	JRバス立命館大学 經由周山行き	立命館大学前	30分
JR 円町駅（嵯峨野線）	市バス快速202・快速205	立命館大学前	10分
	市バス205	衣笠校前	10分、さらに西へ徒歩10分
	JRバス立命館大学經由	立命館大学前	10分
阪急電鉄 西院駅	市バス快速202・快速205	立命館大学前	20分
	市バス205	衣笠校前	20分、さらに西へ徒歩10分
阪急電鉄 河原町駅 （四条河原町）	市バス12・51	立命館大学前	40分
京阪電鉄 三条駅	市バス15・59	立命館大学前	30分
京福電鉄 嵐山線 四条大宮駅・嵐山駅	北野線 （帷子ノ辻駅にて乗換）	等持院駅	北東へ徒歩約10分

立命館大学・歴史都市防災研究センター（カンファレンスホール（地下1階））

所在地: 〒603-8341

京都市北区小松原北町58番地

連絡先: TEL : 075-467-8801 FAX : 075-467-8825（平日10:00~17:00）